

## 1. 調査報告概要表

作成日 2009年2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	15911200082
法人名	社会福祉法人 村上岩船福祉会
事業所名	認知症高齢者グループホームたかつぼ
所在地 (電話番号)	新潟県村上市下鍛冶屋572番地7 (電話 0254-62-1478)
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県上越市富岡3446
訪問調査日	平成21年1月30日

## 【情報提供票より】(平成20年12月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

## (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建て	1 階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780 円			

## (4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	6 名	要介護2	0 名			
要介護3	3 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.2 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	新潟県立坂町病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>JR羽越線坂町駅に近く、国道7号線から少し入った環境に恵まれた土地にある、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所を併設したグループホームです。複合施設のメリットを活かした看護師との連携体制や夜間の協力体制は利用者や家族の安心に繋がっています。</p> <p>建物はゆとりある設計になっており、天井が高く、天窓からの採光により、明るく開放感があります。また、共有空間を中心に居室が3部屋ずつ3方向に配置されており、各居室の前の広い廊下では職員と利用者が談話をするなど、ゆったりと安心して過ごせるスペースが確保されています。管理者を中心としたしっかりとした事業所運営のもと、利用者や職員の会話と笑顔が溢れ、家庭的で暖かな雰囲気になっています。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価の結果は職員に伝えられ、全職員で改善の取組みが行われました。(市町村との連携...平成20年4月より市職員が運営推進会議に参加、馴染みながらのサービスの利用...お試しお泊りの実施、職員を育てる仕組み...法人本部と協力し進居中)</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員一人ひとりが自己評価を行った上で、事業所としての自己評価としてまとめ上げられています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>事業所からの報告に加え、参加者に写真を見てもらい、利用者の表情を伝えることや、事業所からの依頼を伝え、協力を求めることなどが行われています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情・相談窓口の掲示に加え、日常的に事業所に対して何でも言える雰囲気作りに努められています。また、日帰り旅行などの行事の際に、家族が集まり話し合える場が設けられています。さらに意見箱の設置やアンケートの実施など、意見や苦情を吸い上げる窓口を広げていくことを期待しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅街ではないため、事業所の方から地域のお祭りや集会所で行われる行事などへ積極的し交流に努められています。また、事業所のお茶会や新年会などの行事への地域住民の招待も行われています。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時、地域の高齢者に貢献したい、認知症で困っている家族の相談にのりたいという思いで、職員で言葉を出し合い事業所独自の理念が作り上げられています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念をもとに、「できることを引き出す」「その時々笑顔を引き出す」という具体的な目標に落とし込まれ、理念の具現化に向けて取り組まれています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用開始時の説明、自分のうちという意味の「あらごん家」という広報誌、運営推進会議、地域の集い・交流スペースへの参加を通して事業所の理念と取組みが家族と地域に対して行われています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街ではないため、事業所の方から地域のお祭りや集会所で行われる行事などへ積極的に交流に努められています。また、事業所のお茶会や新年会などの行事への地域住民の招待も行われています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価の結果は職員に伝えられ、全職員で改善の取組みが行われました。また、全職員一人ひとりが自己評価を行った上で、事業所としての自己評価としてまとめ上げられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に加え、参加者に写真を見てもらい、利用者の表情を伝えることや、事業所からの依頼を伝え、協力を求めることなどが行われています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域福祉課や包括支援センターの職員が運営推進会議の委員となっていることや、支援センターが主催する行事への参加を通して、日常から報告や相談を行う関係が築かれています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議での話し合いや個別に話しを聞く機会を設け、百対の防止に努められています。また、認知症虐待防止サポーター養成研修を受講している管理者からの職員に対する研修会も計画されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、電話、広報誌での利用者の暮らしぶりや健康状態の報告が行われています。金銭に関しては、金銭出納帳を作成し、3ヶ月に1回出納帳と領収書の送付と確認書の返信が行われています。加えて、ヒヤリハットが発生した際も電話にて家族への報告が行われています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口の掲示に加え、日常的に事業所に対して何でも言える雰囲気作りに努められています。また、日帰り旅行などの行事の際に、家族が集まり話し合える場が設けられています。		意見箱の設置やアンケートの実施など、意見や苦情を吸い上げる窓口を広げていくことを期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議で出された職員の意見や提案は管理者を通して法人に伝えられています。また、日常的に職員から改善策が出される風土が作られています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が「なじみの関係」に配慮し、異動は最小限に抑えられています。また、働きやすい職場づくりに努め、これまで離職はありませんでした。異動が発生した場合は、利用者や家族に対する説明を行うことや、日常的に「申し送りノート」を活用し情報共有を行うことで、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルは法人で揃えられており、事業所用の業務マニュアルも整備されています。また、より現状に即したマニュアルにするための見直しが適宜行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部と協力し、段階に応じた研修が計画的に行われるよう取り組まれています。また、地域振興局主催の認知症研修への参加や講師を招いた内部研修が行われています。加えて、多くの職員が参加できるように配慮するとともに、参加できなかった職員への伝達もしっかりと行われています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が発起人となり、村上市・関川村の小規模施設に働きかけ、2ヶ月に1回の管理者の意見交換や年に3回の職員の交流が行われています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所と休憩時間の確保や、不定期に仕事を離れた懇親の場が設けられています。また、日常的に管理者が職員の様子に注意を払い、気になることがあれば対応をするなどの配慮が行われています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学や、お試し宿泊を行い、除々場の雰囲気馴染めるよう工夫されています。また、法人でデイサービスも運営しており、法人全体で長期的にスムーズな移行が行える体制もつくられています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共有スペースの廊下に、本やお手玉が置かれた集いの場が設けられており、夜に1時間ぐらい職員と利用者が語らう場面もあります。そうした会話の中で、生活の知恵や人生経験を利用者から学び、年長者として敬う関係が構築されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況を把握した上で、家族にお願いする部分は具体的に伝え、役割分担を行うことで、事業所と家族が協力して利用者を支える関係づくりが行われています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを導入し、家族に記入してもらったものに、職員が適宜日常のケアで得た情報を追記する取組みが行われています。また、生活記録に特記として記載されています。		きめ細やかな情報収集に努められていますが、生活記録に記載された特記とセンター方式のアセスメントが連動していない点が残念です。モニタリングなどの定期的な機会に、特記をアセスメントに転記し、情報を一元的に管理する仕組みが作られることを期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握同様、センター方式のアセスメントを導入し、家族に記入してもらったものに、職員が適宜日常のケアで得た情報を追記する取組みが行われています。また、生活記録に特記として記載されています。加えて、生活歴の重要性を認識し、分からないことがあれば自宅に訪問して聞き取るなどの取組みも行われています。		思いや以降の把握同様、きめ細やかな情報収集に努められていますが、生活記録に記載された特記とセンター方式のアセスメントが連動していない点が残念です。モニタリングなどの定期的な機会に、特記をアセスメントに転記し、情報を一元的に管理する仕組みが作られることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が利用者・家族・関係者から聞き取った情報をもとに、月に1回カンファレンスを開催し、職員の意見を集約して利用者本位の介護計画が作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画チェック表にて毎日職員による援助内容の確認を行った上で、毎月のモニタリングを踏まえ、3ヶ月に1回の見直し・更新が行われています。また、状態変化による随時の見直しも行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診同行や買い物など、利用者や家族の希望や都合に応じた柔軟な支援とともに、看護師の協力体制・デイサービスとの連携による地域の人との交流など、複合福祉施設のメリットが活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望する医療機関での受診支援が行われ、電話や家族を介しての書面での医師との情報交換が行われています。また、状況に応じて職員による受診同行も行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの実施に向け、家族の意向の把握、医療機関との相談が進められています。		医療機関・看護師との連携、夜間の対応、職員の育成など、継続的に一つひとつ課題をクリアし、ターミナルケアに対応した体制づくりがされることを期待します。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を明確にし、家族の同意が取られています。また、羞恥心への配慮や超えかけは会議にて繰り返し伝えられ周知徹底が図られています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のおおよその時間は決まっていますが、寝起き・食事・入浴など利用者の1日のペースに合わせたゆったりした支援が行なわれています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・味付け・盛付け・食事・片付けなどを職員と一緒にいき、楽しみながら食事をされています。また、畑やプランターで収穫された旬の食材がメニューに活かされています。加えて、誕生会の時は好きなものでお祝いをするなどの工夫もされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄リズムや行動パターンを把握してトイレ誘導を行うことで、日中は布パンツで過ごせるよう支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は一人ひとりの希望が尊重され、夕方の入浴への対応や足浴などの支援も行われています。また、入浴をしたがらない利用者に対して、声掛けやタイミングなどを職員間で連携し、無理強いをせず入浴できるよう対応されています。加えて、ゆず湯や菖蒲湯などの季節感の演出や入浴剤などの工夫も行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を踏まえ、食事作り・繕い物・掃除などの家事仕事に加え、百人一首や図書館から本を借りてきての読書など、一人ひとりが好きなことを行えるよう個別レクを実施し、気晴らしの支援が行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの日常的な外出に加え、地域の行事・バスハイクなどのイベントとしての外出の機会も多々設けられています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの周知、会議でのケース検討を含めた勉強会、法人と職員の契約書などにより徹底が図られています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンの把握と見守り、隣接する同法人の特養との連携により、日中は居室や玄関の鍵をかけないケアが実践されています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルの整備とともに、ヒヤリハット報告書が活用され、事例が発生した際は即日に再発防止策が検討され、職員間で共有がされています。また、家族への報告やその後の経過の確認と評価も行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2年に1回の消防署による救命救急講を全職員が受講しています。また、年に1回、併設の特養の看護師による研修も行われています。		自己評価にも記載されている初期対応の訓練を実施し、さらに急変や事故発生に対する備えをされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回行われる訓練のうち、1回は消防署の立会い、もう1回は区長が参加し、近隣との災害時の連携が図られています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じた摂取量チェック、体調に応じた食事形態・量の工夫や、カロリー計算を行い併設の特養の管理栄養士による栄養バランスのアドバイスが行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高く、天窓からの採光により、明るく開放感があります。また、共有空間を中心に居室が3部屋ずつ3方向に配置されており、各居室の前の廊下が広く、談話をするスペースになっていることで、それぞれの利用者が思いおもしろい場所で過ごせる場所が確保されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの居室は温かみがあり、使い慣れた家具や品物を持ち込みが奨励され、落ち着いて安心して過ごせる工夫がされています。		